

2024年5月10日

近畿労働金庫
理事長 江川 光一 様

「2023年度近畿ろうきんNPOアワード」選考結果報告書

2023年度近畿ろうきんNPOアワード審査委員会
審査委員長 阿部 匡伴

「2023年度近畿ろうきんNPOアワード」審査委員会の選考結果について、以下のとおり報告いたします。

1. 審査について

2023年12月1日から2024年1月31日までに応募があった71団体の応募書類をもとに、各審査委員が事前審査を行い、4月4日に開催した審査委員会において各受賞団体を選考しました。

選考の結果、審査委員会にて、50万円コースを4団体、10万円コースを2団体とすることを確認しました。審査委員は下記、記載のとおりです。

【審査委員】（敬称略）

- 審査委員長 阿部 匡伴 （近畿労働金庫 近畿推進会議 議長）
- 審査委員 山縣 文治 （関西大学 人間健康学部 教授）
- 岡田 智恵 （公益財団法人 コープともしびボランティア振興財団 事務局長）
- 貫名 茜 （特定非営利活動法人 ホッピング 理事長）
- 東中 健悟 （近畿労働金庫 地域共生推進室 室長）

なお、応募団体の理事・監事に就いている審査委員は、その団体の審査からは外れることとしておりますが、該当する審査委員は存在しないことを確認しております。

2. 受賞団体の決定にあたって

2023年度の応募数は71件（50万円コース、10万円コースあわせて）で、過去8年間で最多となりました。応募内容の特徴として、「コロナ禍で顕在化した課題に対する活動」は減少し、食支援を通じた居場所づくりや学習支援、相談、生活支援など複数の支援内容を組み合わせたプログラムや、不登校への取組みが増加しています。

また、病気の子どもや不登校の子どもたちを対象とした活動を通じて「子どもたちが助け合う仕組み（Children for children）」の確立をめざすもの、居場所の活動を拡充し、ヤングケアラーの相談場所の機能を構築するものなど、応募内容も多様性に富んだものとなりました。

審査は、応募プログラムの「先進性」「創意工夫」「社会性」「実現性」「効果と発展性」

「共感と市民参加」「資金計画の妥当性」「新規チャレンジ性」の項目に加えて、応募団体の「組織の継続性・運営体制・活動歴」や「市民主体性」の項目も基準とし、選考しました。

「50万円コース」では、多くの審査項目で高い評価を受けた4団体を選定し、「10万円コース」では、審査委員の評価が分かれていましたが、先進性、チャレンジ性、継続性で高い評価を得た2団体を選定しました。(※各受賞団体の応募プログラムの内容や審査講評は、次ページ以降をご確認ください)

なお、受賞団体は今年度の応募状況を反映した幅広い分野からの選定となり、それ以外の団体についても、子育て支援に関する課題に対する取組みへの熱意は受賞団体に匹敵するものでした。

3. 今後の提言として

「近畿ろうきんNPOアワード」は、働く仲間の教育ローン利用が、子どもたちの未来と地域の子育て支援につながる仕組みをめざして、公募型の助成プログラムとして2006年度から実施され、これまで190団体に総額4,086万円の助成金をお届けしました。

応募プログラムは、いずれも社会的ニーズにもとづいた切実なものばかりで、「子育て支援」は勤労者にとって共通する社会課題であり、とりわけ、働く仲間の暮らしを支える「ろうきん運動」に相応しい事業であると考えています。

また、この制度の仕組みである「教育ローンde子育て応援プロジェクト」が2023年度グッドデザイン賞を受賞されるなど、“社会をよりよく変えるデザイン”として評価されています。

審査委員一同として、社会にも評価されている「近畿ろうきんNPOアワード」を、「組合員の、ろうきん利用をとおして地域の課題に対応するNPOを応援する事業」として継続いただくことを強く要請する次第です。

また、会員推進機構とともに事業を進める「ろうきん」として、各会員組合に対して、地域のNPOを応援するプログラムを数多く実践されていることを、より分かりやすく丁寧に伝えていただきますようお願いいたします。

※次頁以降の「団体の活動内容」および「応募プログラムの内容」は、応募団体からの申請書の内容にもとづき掲載しています。

～50万円コース<4団体>～

■ NPO法人 せいじゅんたすけあいこども食堂（奈良）

完全個別学習サポートプログラム

生きづらさを抱えた小中学生を対象とした子どもたちが、参加しやすいWEBを使った個別学習支援、およびプログラミングを使った数理クラブの開催

<p>団体の活動内容</p>	<p>当団体は、子育て家庭における貧困や社会的孤立、子どもの「教育格差」「体験格差」などの格差を解消し、どのような子どもであっても自身の将来の夢を実現することができる社会となることをめざして設立。</p> <p>貧困家庭、発達障がい、不登校・引きこもりなど、生きづらさを抱えた子どもたちを対象に、子ども食堂や共育や食育などの体験や学びを通じて、子どもたちの「生きる力を育む」活動を行っている。また、行政、学校等と連携し、保育士、学校教員、心理カウンセラー、社会福祉士などによる子育て全般の相談支援も行っている。</p>
<p>応募プログラムの内容</p>	<p>本プログラムは、生きづらさを抱えた小中学生を対象に、マンツーマンでの完全個別学習サポート（無料／毎週水曜日・夜、月2回土曜日・夜）、およびプログラミングを使って算数・理科の問題を解くことによりその面白さを体験できる「数理クラブ」（隔週水曜日・夜）を、WEBを活用して実施するものである。</p> <p>参加者は経済的な理由で塾に通うことができないひとり親困窮家庭の子どもや、不登校・ひきこもり、発達障がい、学習障がいの子どもたちが大多数で、なかにはDVを受けて施設に庇護されている子どももいる。学習に必要な機材（パソコン、ウェブカメラなど）を無料で貸出し、学習教材については、個々の就学度に応じ、保護者と相談のうえ個別に準備することとしている。</p>
<p>審査講評</p>	<p>本プログラムは、経済的貧困の拡大に加えて、不登校・引きこもり、発達障がい、経済的事情による学びの機会の喪失など、「それぞれの子どもに合った学び」の機会を持たない子どもたちが顕著に増加していることへの課題解決につながるものである。</p> <p>画一的な学校教育では対応できない子どもに対し、その子に合った学習機会の提供や育児放棄やDVによりそもそも就学の機会を享受できない子どもへの学びの場の提供、ひきこもりの子どもたちが参加しやすいWEBを活用した個別の学習支援を無料で提供している点について、先進性、社会性の観点から高く評価した。</p>

■ NPO法人 にこにこエプロン (大阪)

親と子の笑顔を守るお手伝い

子育て世代の孤立を防止する居場所・相談室の開設と育児支援を目的とした家庭訪問の実施

<p>団体の活動内容</p>	<p>当団体は、2017年に豊中市の児童虐待相談対応件数が対10年比3倍、大阪府の通告件数が全国ワースト1位という現状を受け、虐待が起こってからではなく予防することの必要性を痛感し、設立。</p> <p>貧困、虐待の連鎖、ワンオペ育児、離婚、産後うつ、援助者がいない等の理由による「親の孤立」が虐待につながる大きな要因であり、子育て支援センター窓口に来ることのできない家庭こそが、最も支援が届かず虐待のリスクが高く、そのような家庭に対して子育ての終わった人が役に立てればとの思い、居場所づくりや多世代の交流、講座の開催、保育サポートなどの事業を実施している。</p>
<p>応募プログラムの内容</p>	<p>本プログラムは、①産前産後の支援のない時期に、不安を抱えながら悩みを話す機会もなく、手助けのない状況で、産後うつ傾向の母親が増加していること、②出生数は減少する一方で児童虐待相談対応件数が増えていること、③高齢出産の割合が増え、孫の世話ができない祖父母世代の増加、④育児の難しい子どもの増加、などにより子育てに疲弊を感じる母親に対し、同じ世代の子どもを持つ母親同士の居場所づくりや、産前産後のサポートに取り組むものである。具体的には以下の3つのプログラムを実施する。</p> <p>① 居場所・相談室の開設 子育てひろば(子育て世代が孤立しないような居場所)、にこにこカフェ(多世代との交流)</p> <p>② 家庭訪問の実施 産前産後、月1~4回の育児支援(2~6か月継続)、および2・3人目の育児疲れの相談。</p> <p>③ 講座の開催 「気になる、子どもの発達」(3回シリーズ)</p>
<p>審査講評</p>	<p>本プログラムは、産前産後における子育て不安や産後うつによる児童虐待防止に向けた取り組みである。子育てにおける孤立やワンオペ育児を防止するための居場所づくりや、家庭訪問による育児疲れの軽減を図るなど、多彩なプログラムで子育て世代の支援を行うこと、また、実施する講座では、乳幼児期に専門機関を探すことが容易でない母親に、親も子どもも成長することができるよう専門機関につながる情報を提供することとしている。「親の孤立」を防ぎ、子育て経験者との会話から母親の気持ちを安定させ、産前産後に起こることが予想される問題を未然に「予防」することに着目したプログラムであり、社会性、実現性、発展性の観点から高く評価した。</p>

■ 労働者協同組合 こども編集部（兵庫）

哲学対話を中心とした多様性を認め合える居場所づくり

多様なメンバー（子ども、大人、外国の方）で「正解」や「結論」を求めない対話型ワークショップの実施

<p>団体の活動内容</p>	<p>当団体は、近隣区域の子どもたちと大人たちが協力して地域の魅力や活動を紹介する編集地域メディアを 2020 年に設立。各分野のプロフェッショナルや学校教育関係者がサポートしながら、子どもたちが主体となり、地域・企業を取材した記事の情報発信や、イベント企画・開催を子どもたちの手で作る体験の場を提供している。</p> <p>現在では、編集部事業、子どもと大人の居場所づくり事業など、5つの事業を展開している。また、受益者以外からも収入を得て持続可能な運営ができるよう、労働者協同組合に組織形態を変更した。</p>
<p>応募プログラムの内容</p>	<p>本プログラムは、小学校高学年～中学生を中心に、大人・保護者、外国のお友達、など多様な価値観に触れるため様々な属性の方々を対象とした対話型のワークショップを実施するものである。</p> <p>制作・企画、プロジェクトには「話し合う」という時間が必要である。ワークショップでは、テーマは決めるが、「正解」「結論」を求めず、P4C（フィロソフィーフォーチルドレン）の方法を取り入れ、いくつかのルールを設け、参加者に気持ちよく対話してもらうこととしている。開催は毎月1回、合計10回で時間は1～2時間程度を予定し、ファシリテーターには哲学科在学中の哲学対話運営ファシリテーター、国語教員をしていたサポーターを中心に行うこととしている。</p>
<p>審査講評</p>	<p>本プログラムは、「哲学対話」を通じて、思春期の子どもたちが学校や家庭では言えないような大切な自分の思いをつぶやく場を提供し、居場所としての役割を發揮することとしている。編集委員として参加している子どもの中には、学校に行っていない子ども、一時期行っていなかった子ども、居場所を見つけられない子どもが一定数おり、そのような子どもたちに「ここが自分の居場所だ」と思ってもらえるよう、サポートする大人たちでの見守りを心がけている。</p> <p>哲学対話という手法を切り口とした新しい取組み、多様な価値観とのふれあいをキーとした面白い試みであることなど、創意工夫、社会性、新規チャレンジ性の観点から高く評価した。</p> <p>今後は他のコミュニティでの導入や、学校現場に出向いての哲学対話の機会提供を検討されており、事業の発展性に期待したい。</p>

■ 居場所づくり ばれっとしが (滋賀)

日野子ども職業体験～仕事を身近に感じる機会づくり～

地域にある商店や企業とともに、ものづくりを体験することにより、地域のよさや仕事の大変さ、すばらしさを実感してもらう

<p>団体の活動内容</p>	<p>当団体は、お話し活動として始めた「パネルシアター (動く紙芝居)」を、コロナ禍により見直し、今までかかわってきた方々の声に応えるための拠点をつくり、地域の子どもたちや地元の方々と共に育てていく事業を開始。現在では、ひとり親や生活困難な親子を対象に、自由に入出りできる居場所を無料で開放している。具体的には、家族や地域の交流の場や外国にルーツのある子どもの学習支援、ヤングケアラーの支援を行いながら、昼間は親子連れ、夕方からは小学校や中学校の子どもたちが親が帰ってくるまでの居場所を提供している。</p>
<p>応募プログラムの内容</p>	<p>本プログラムは、地域の資源を知り、活動している方と出会い、日ごろの活動や働きを知ることにより、地元の商店・企業がその地域で果たしている役割や、日ごろからお世話になっていることを子どもたちに実感してもらうものである。地域のものづくりの見学・体験を通じて、地域の良さや仕事の大変さ、すばらしさを実感してもらい、親の仕事への理解や大変さを考えてもらう機会としている。</p> <p>長期休みになると共働きやひとり親家庭の子どもたちは、家で一人で過ごしたり、人とかわりを持たないケースが増加しており、プログラムの実施により、地域で働いている方と子どもたちの交流が、孤立や孤独を防止し、地域での見守りにつながることが期待できる。</p>
<p>審査講評</p>	<p>本プログラムは、長期休み中の子どもの孤立や孤独を防止するための居場所をつくる取組みである。プログラムの実施により、地元商店・企業との連携や地域の資源や活動を知ること、地元の良さを理解することが地域の活性化につながる。また、地元商店・企業と地域の子どもたちのつながりをより強いものにするにより、地域での見守り機能の向上、地域づくりの強化が期待できることから、創意工夫、社会性、市民性の観点から高く評価した。</p> <p>地域で働く人の活力や発展にもつながる活動であり、今後の継続性に期待したい。</p>

～10万円コース～<2団体>

■ NPO法人 ホスピタルフットボール協会（大阪）

フラッグフットボールを活用した課題を持つ子どもたちの交流

病気・不登校など課題を持つ子どもたちを対象に、お互いに助け合う活動をめざしたゲームの提供・交流やフラッグフットボール体験会の開催

団体の活動内容	<p>当団体は、現代表理事の「病院でアメフトをしませんか」という提案から、小児がん拠点病院のひとつである大阪市立総合医療センターで活動を開始。入院している子どもたちがフラッグフットボールの作戦をつくり、病院の外にいる子どもたちが作戦を使ってプレーすることにより両者をつなぐ「ホスピタルフットボール」を行っている。</p>
応募プログラムの内容	<p>本プログラムは、不登校などの課題を持つ子どもたちと病気の子子どもたちが、フットボールを通じてお互いに助け合う活動をめざしている。</p> <p>お互いが同じゲームを使ってフットボールのルールを理解し、病気の子子どもたちは作戦を考え、不登校の子子どもたちは地域や学校内の居場所事業を行う団体と連携し、フラッグフットボールの体験会を経て、交流試合を行う。そして競技会「ファーストダウンボウル」を開催し、入院している子どもたちが考えた作戦を使って元気な子どもたちがプレイし、その様子をスマホのチャット機能を使って、入院している子どもたちに見てもらおう。課題を持つ子どもたちがお互いの状況を知ること、一歩踏み出すことにつなげたいとしている。</p>
審査講評	<p>本プログラムは、病気や不登校など明るい未来が見えない子どもたちが、協力し成功する「集団達成」の喜びが得られ、人との協力を学ぶことにより「自己肯定感」が得られるなど、課題を持つ子どもたちが「フラッグフットボール」を通じて成長する機会を提供している。プレーヤー全員が役割をもって参加し（誰も取り残されることがない）、作戦を考えることで自分の知性を最大限に発揮でき、アクティブラーニングを身につけられるなど、新たな視点での活動であり、新規チャレンジ性、先進性の観点から高く評価した。</p>

■ NPO法人 きのくに子どもNPO（和歌山）

妊娠中から子育て家庭を支援する切れ目のない子育て支援

妊婦さん夫婦向けの交流・勉強会の開催と、生後 2～5 か月の子どもとママを対象とした講座「あかちゃんがきた！」の開催

<p>団体の活動内容</p>	<p>当団体は、すべての子どもに対して豊かな生活体験・芸術体験を提供することで、子どもの発達・成長をサポートすることを目的に設立。子どもの権利条約を基本にすべての子どもが豊かな子ども時代を過ごせるよう、①子どもたちの主体的活動による社会参画支援、②子どもの居場所活動・体験活動、プレーパーク冒険あそび場支援、③子どもの心を豊かにし、創造力や感受性を高める舞台鑑賞、④社会みんなで子どもたちを育てる子育て支援事業、⑤子育て中の親と子どもを支援し、子育てしやすい環境づくり、⑥子どもと文化に関わる情報発信、子どもに関わる大人の人材育成、などを行っている。</p>
<p>応募プログラムの内容</p>	<p>本プログラムは、妊娠中から切れ目のない子育て支援をするため、以下の取り組みを実施。</p> <p>① プレママプレパパ講座 妊婦さん夫婦の交流の場を提供し、地域の子育て資源を紹介するとともに、子育て中の先輩ママパパがサポーターと参加して、ワークショップなどを実施。</p> <p>② 親子の絆づくりプログラム「あかちゃんがきた！」 生後 2～5 か月の子どもとそのママを対象とした連続 4 回講座。赤ちゃんとの接し方など子育ての具体的な知識を学んだり、子育ての不安などを出し合い、気軽に話し合える場として実施。</p> <p>上記プログラムの参加を保健センター、産婦人科、助産院などにチラシを設置、地域情報誌なども活用し、広く市民に呼び掛ける。</p>
<p>審査講評</p>	<p>本プログラムは、核家族化、地域とのつながりの希薄化による孤立の防止、安心してつながりあえる場所の提供により、「産前から切れ目のない子育て支援」に寄与するものである。夫婦一緒に参加することで、父親に子育てへの参加・協力を促すことができ、子育て過程で起こる様々な問題に対して気軽に話し合えることで、地域でのネットワークが広がり、親子の孤立化を防止することができることなど、社会性、継続性の観点から高く評価した。</p>